

令和2年度 第4回 総合教育会議 議事録（概要）

- 1 日 時 令和2年11月13日（金）15:30～16:45
- 2 場 所 三重県総合博物館 レクチャールーム
- 3 出席者 知事、教育長、教育委員4名
- 4 議 題 ・学力向上・体力向上について
・自立と社会参画に向けた外国人児童生徒教育について
- 5 主な意見（ :教育長、教育委員 :知事）

<学力向上・体力向上について>

- 新型コロナウイルス感染症対策に伴い「全国学力・学習状況調査」、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が中止となった中、今年度各学校において実施した「みえスタディチェック」や「50メートル走」などのデータをもとに、問題を特定し、対策を講じていくことが大切である。
また、これまで学校が果たしてきた役割や地道な取組を再評価し、今後につなげていくことも大切である。特に、子どもたちの自己肯定感が低いので、自信を持てるよう対策を講じていくことが求められている。
- 低学年時から学ぶことの楽しさを子どもたちに伝えていくことが重要である。そのために、成長に応じた指導・教育方法を教員間で共有し、取組を継続的に実施していくことが重要である。
- ICTの活用にあたっては、生徒の学習意欲を高めるためにどのように活用すればよいのかを一人ひとりの教員が理解することが重要である。
- 子どもたちの理解をフォローするため、地域のボランティアの協力を得ながら、放課後学習支援等を行っていくことが必要ではないか。
- 新型コロナウイルス感染症対策に伴うオンライン授業の実施で、新入生は「人慣れ」しておらず、他者との関係がつかめずにいると感じる発言が散見される。今後、オンライン授業の中で生徒同士が小グループで意見交換できる機会や対面とオンラインを織り交ぜていくなど、工夫が必要である。
- 児童生徒の学習状況について、前年度との比較だけでなく、小学5年生が中学3年生となった時点での数値の動きなど、データをさまざまな視点から分析するとよいのではないか。
- 体力向上のためには、低学年時から自然に体を動かす機会を持つことが大切である。放課後に校庭で遊ぶ子どもたちが少なくなっていることやコロナ禍で運動機会に制約があるので、子どもに体力をつけさせていくためには、子どもたち自身で目標をつくっていくなど、工夫する必要がある。
- 令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の本県結果において体力合計点が前年度を下回った要因として「授業以外での運動時間の減少」や「テレビ等の視聴時間が多い」ことが挙げられているが、幼児期の子どもたちにとってゲームやテレビが身近にあるからではないか。幼児期にスポーツがもっと身近にあれば、これまでとは違った体力向上のアプローチができるので、地域で活動しているスポーツ団体、県内社会人チームの力を借りながら、スポーツを身近なものにしていくことが必要と考える。

- 1月から2月にかけて実施する第2回みえスタディチェックにおいては、市町・学校単位で問題の所在やその対策について検討していけるよう市町を支援していきたい。

来年4月からICTを活用した教科指導等が実施されるので、子どもたちの意欲が高まる実践例等もふまえた教職員研修を今年度後半に実施したい。

新型コロナウイルス感染症対策に伴い部活動が特に大きな影響を受けた中で実施した代替大会の成果と課題を、今後の取組へとつなげたい。また、部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携について、子どもたちが安全に楽しめることと競技力向上の両面をふまえた対応を検討していきたい。

ICTを活用した学びで伸びる子どももいれば戸惑いを感じる子どももいる中で、ICTを活用するという「手段」の実現で満足するのではなく、ICT活用の「目的」をしっかりと認識し進めていってほしい。

国体・全国障害者スポーツ大会局では成人の運動の実施促進を、医療保健部では健康づくりの取組を進めている中で、学校における子どもたちの体力向上のみならず、大人や地域、企業における健康づくりも含めて全体として施策を進めていけるよう、各部局が連携して取り組んでいけるとよい。

<自立と社会参画に向けた外国人児童生徒教育について>

- 学び直しの機会についてのニーズ調査の結果を見ると、外国人が日本語を学ぶ場としてだけでなく、日本人も含めて夜間中学の設置を求める声も一定数ある。これを3年間継続して学びたいというニーズと捉えるなら、夜間中学を整備する意義はあると感じる。
- 10代から学ぶことの重要性を認識してもらうことが大切である。そのためには、保護者の子どもへの教育観が重要なので、地域の外国人コミュニティにおけるキーパーソンの協力を得ながら日本の学校や教育への理解促進を図るとよい。
- 外国人の子どもへの保護者も日本語を習得する必要があるため、保護者が子どもと一緒に日本語を学べる場があるとよい。また、オンラインで同じ国の人同士がつながる場があれば、外国人の子どもに学ぶ意欲や学校へ行く楽しみを持ってもらえるのではないかと。
- 子どもに教育を受けさせる必要性を外国人の保護者に理解してもらうことが重要である。子どもの教育を進めていくため、保護者を対象とした取組にさらに力を入れていく必要がある。
- 学び直しの機会の確保についてはさまざまなニーズがあることから、他県の取組例も参考にしながら検討を進めていきたい。

外国人児童生徒が安心して学校生活を送ることのできるよう、教育委員会だけでなく、外国人コミュニティ等のリーダーや事業所、みえ外国人相談サポートセンター「MieCo」、外国人を支援しているNPO、日本語教室等と連携し、組織や部局の壁を越えたきめ細かな支援を進めていくことが必要である。